

# 防災力を高めるための防災教育に関する研究

## —その4 小学校低学年生の動機付けを目的とした生活科における防災教育ツールの開発—

正会員 ○ 伊村 則子\*1  
正会員 石川 孝重\*2

防災教育 小学校 生活科  
教科書 教材 アンケート

### § 1 はじめに

日本は世界有数の地震国である。近年では東海地震も心配され、国民が防災について考える機会は増えている。一方で幼少期の子供たちの防災意識の啓発、防災教育はどうなっているのだろうか。本研究ではその実態を探るとともに、小学校低学年(1・2年生)独特の教科である生活科に注目し、生活科において防災の知識を身につけさせながら、興味を持たせ、自ら学ぶなど、動機付けができる教育ツールの開発を目的としている。

### § 2 防災教育

文献調査<sup>1)</sup>より、戦前の国語教科書や修身教科書の中には防災についての物語を教材とするものがあり、子供たちの意識啓発につながっていたことがわかる。現在、幼稚園では避難訓練、小学校では避難訓練に加えて学級活動・生活科・総合的な学習の時間・地域での活動などで防災教育が行われている。<sup>2)</sup>しかし、その実施状況にはばらつきがあり、そのほとんどを避難訓練に頼っている現状がうかがえる。

### § 3 生活科

**3.1 生活科の概要** 生活科とは、平成4年度から低学年の理科と社会科が廃止された代わりにこれら二つの教科の「合科」として設置されたものである。学習指導要領<sup>3)</sup>に示された生活科の目標は『具体的な活動や体験を通して、自分と身近な人々、社会及び自然とのかかわりに関心をもち、自分自身や自分の生活について考えさせるとともに、その過程において生活上必要な習慣や技能を身に付けさせ、自立への基礎を養う。』(下線部は防災教育に関連すると思われる部分で筆者による加筆)ことであり、3年生からの総合的な学習の時間の前段階としての役割も担っている。また、生活科は1・2年生の全教科の時間数の12~13%を占め、週3時限(1時限=45分)程度行われる。生活科の内容は学習指導要領により8つ(表1左側に示す①~⑧)の内容にわけられている。

**3.2 生活科と防災教育** 文献調査<sup>4)</sup>より、生活科は低学年の理科・社会科の代わりとなる他に、自然とのかかわり、社会とのかかわり、自分へのかかわりが重視され、体験活動を中心に授業が進められていることがわかる。また、生活科教科書、生活科の学習目標、学習指導要領による内容における接点を見出し、生活科で防災教育を行うことは子供たちの身の回りの防災について学ぶのに

表1 分類に使用した内容と抽出した項目

内 容	抽出した項目
①学校の施設の様子及び先生など学校生活を支えている人々や友達のこと分かり、楽しく安心して遊びや生活ができるようにするとともに、通学路の様子などに関心をもち、安全に登下校ができるようにする。	a) 学校を探検 b) 学校の周りを知る c) 友達作り
②家庭生活を支えている家族のことや自分でできることなどについて考え、自分の役割を積極的に果たすとともに、規則正しく健康に気を付けて生活することができるようにする。	d) 家族 e) 自分でできること
③自分たちの生活は地域の人々や様々な場所とかがわっていることが分かり、それらに親しみをもち、人々と適切に接することや安全に生活することができるようにする。	f) 公園で遊ぶ g) まちを知る
④公共物や公共施設はみんなのものであることやそれを支えている人々がいることなどが分かり、それらを大切に、安全に気を付けて正しく利用することができるようにする。	
⑤身近な自然を観察したり、季節や地域の行事にかかわる活動を行ったりして、四季の変化や季節によって生活の様子が変わることや成長していることに気づき、生き物たり楽しくしたりできるようにする。	h) 草花や虫と遊ぶ i) 季節を見つける j) 生き物を探す k) 夏休み l) 冬休み m) 季節を見つける n) フェスティバル
⑥身の回りの自然を利用したり、身近にある物を使ったりなどして遊びを工夫し、みんなで遊びを楽しむことができるようにする。	o) 遊び図鑑 p) 作って遊ぶ
⑦動物を飼ったり植物を育てたりして、それらの育つ場所、変化や成長の様子に関心をもち、また、それらは生命をもっていることや成長していることに気づき、生き物への親しみをもち、大切にすることができるようにする。	q) 植物を育てる r) 動物を探す・飼う
⑧多くの人々の支えにより自分が大きくなったこと、自分でできるようになったこと、役割が増えたことなどが分かり、これまでの生活や成長を支えてくれた人々に感謝の気持ちをもつとともに、これからの成長への願いをもって、意欲的に生活することができるようにする。	s) 人とのかかわり t) 自分の強み
その他	u) 見つけたことを教える

※下線部は防災教育に大切だと思われる部分、及び防災教育を組み込むことが可能と考えられる項目であり、筆者が加筆した。

大変効果的であると見え、生活科に防災教育を組み込むことの可能性に着目した。

### § 4 生活科教科書の内容分析

**4.1 分析方法** 文部科学省検定済の平成16年度使用の生活科教科書全20冊<sup>5)</sup>他(上下巻各10冊)についての内容分析を行った。学習指導要領に示された8つの内容と、自ら抽出した55項目によって分類し、掲載ページの全ページに対する割合によって分析を行った。

項目の抽出は教科書を見ながら、活動内容が同じであると思われるものをまとめ、それらに項目名をつけていった。さらに、抽出した項目を内容により学習指導要領の8つの内容に分類した。その結果を表1に付記した。

4.2 分析結果 生活科の教科書内容を、学習指導要領に示された内容8つに分類した分析結果を図1に、抽出した55項目で分類した分析結果を図2(アルファベットは表1右側のa)~u)に対応)に示す。例えば、表1の内容⑦はページ数が多いのに対して、防災教育を組み込めることが可能と考えられる内容・項目はないというように、生活科教科書の中で実際に多い内容や項目と、防災を組み込めることが可能と考えられる内容や項目にはずれがあり、どの教科書にも載っている内容・項目の中で展開をしていくことが効果的であることがわかった。

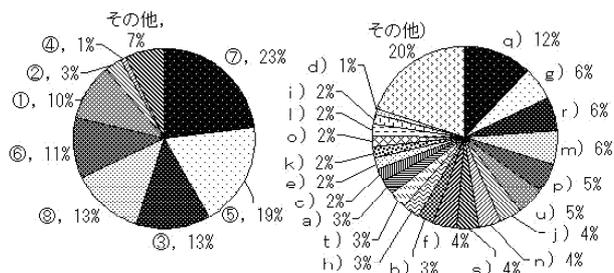


図1 内容の構成比 図2 項目の構成比

§5 生活科で防災教育を行うための補助教材の作成

5.1 学習内容の選定・制作 防災教育として小学校1・2年生に教えるべき項目を「実際に教科書に写真やイラストが載っていたもの」「幼少期の児童への防災教育として必要なもの」<sup>6)</sup>「その他に小学校低学年に必要であるとされること」の3つの視点から検討し選定した。選定した学習項目を教科書の内容分析の結果と比較し、分析結果より得られた防災教育を組み込めると考えられる項目に対応させ、表2のマトリクスを作成した。補助教材

表2 生活科教科書内容分析と学習項目の比較

教科書内容の項目 選定した学習項目	学校探検	学校の周りを 知る	地図を作る	教えてもらう	自分でできる こと	人との かわり	町を知る
	対象学年	1, 2	2	1, 2	1, 2	1, 2	2
用具 など	消火器	●	●	●			●
	非常口	●	●	●			●
	避難所	●	●	●			●
	消火栓	●	●	●			●
	防火水槽	●	●	●			●
	備蓄庫	●	●	●			●
家族	家族との話し合い			●	●		
	家での地震時の対処			●	●	●	
場所 別	教室	●			●	●	
	校庭	●			●		
	通学中		●		●		●
	公園		●		●		●
避難 方法	体育館	●			●		
	給食中	●			●		
	家庭				●	●	
他	通報の仕方			●	●		

は、写真と絵を中心に考えながら学べるものにし、書き込み式の部分を設け学習の成果がみえる構成にした。

5.2 評価と改訂 作成した補助教材を、小学校1・2年生の担任を務める教員2人と、小学校低学年の子供を持つ親3人、そして小学校低学年の子供3人に見てもらい評価を受けた。「難易度が高い」「分量が多い」という指摘を受け、評価をもとに補助教材の改訂を行った。図3に改訂後の補助教材の一部を示す。



図3 改訂後の補助教材(避難方法のページ)

作成した補助教材は、広く供給するためデータのソフトをホームページ上からダウンロードする供給形式とした。さらに、共通の部分と地域性を持たせる部分とにわけ、地域性を持つ部分については身近な学校や通学路の写真の差し替えができるようにした。

§6 おわりに

地震の危険を身近に感じ、早急な対策が求められる現在において、小学校低学年を対象とした避難訓練以外の防災教育は少ない。体験型授業の生活科において防災教育を行うことは、実践的な知識や防災に対する意識を持たせることに有効であり、3年生以降に展開される総合的な学習の時間につながるといえる。また、学校と家庭の両方が協力して防災教育を行う必要もある。今後小学校低学年におけるさらなる防災教育の発展を望む。

なお、本研究は当時研究室所属の原梨恵君の協力を得た。また、ヒヤリングにご協力戴いた方々に感謝する。

【引用文献】

- 財団法人消防科学総合センター：地域防災データ総覧防災教育編、財団法人消防科学総合センター、平成元年3月。
- 文部省：防災教育のための参考資料「生きる力」をはぐくむ防災教育の展開、文部省、平成10年3月31日。
- 文部科学省：小学校学習指導要領（平成10年12月）、独立行政法人国立印刷局、改訂版、平成16年1月20日。
- 嶋野道弘：実践からつくる生活科の新展開ー学び・体験・かわり・遊びー、東洋館出版社、第1版、平成11年3月10日。
- 滝沢武久他：たのしいせいかつ上ーなかよし、大日本図書株式会社、平成16年2月5日。
- 飯泉知花、久木章江：幼児期の防災教育のあり方と教材の作成、日本建築学会大会学術講演梗概集、pp.739-740、平成16年8月。

\*1 武蔵野大学環境学科 講師・博士(学術)  
\*2 日本女子大学住居学科 教授・工学博士

\*1 Lecturer, Dept. of Environmental Sciences, Musashino Univ., Ph. D.  
\*2 Prof., Dept. of Housing and Architecture, Japan Women's Univ., Dr. Eng.